

この説明書には、製品を安全にご使用いただくための内容を記載しています。工事前に必ずご一読の上、ご使用ください。

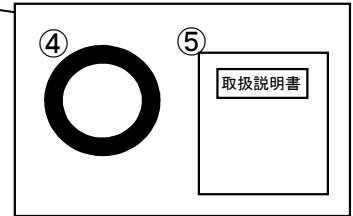
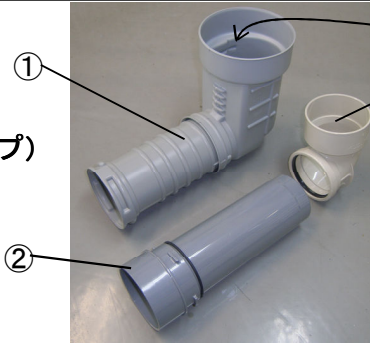
本説明書に記載しているマークの見方

お守りください。お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

- 必ず実行いただく「強制」の内容です。
- 行ってはいけない「禁止」の内容です。
- 気をつけていただきたい「注意喚起」の内容です。

1. 同梱内容

- ① さや管 (ポリエチレン製)
- ② 内管ストレート (硬質ポリ塩化ビニル製)
- ③ 内管エルボ (硬質ポリ塩化ビニル製)
内蔵ゴム輪 (クロロプレン製 自己潤滑タイプ)
- ④ 防虫リング (発泡クロロプレン製)
- ⑤ 取扱説明書 (本紙)



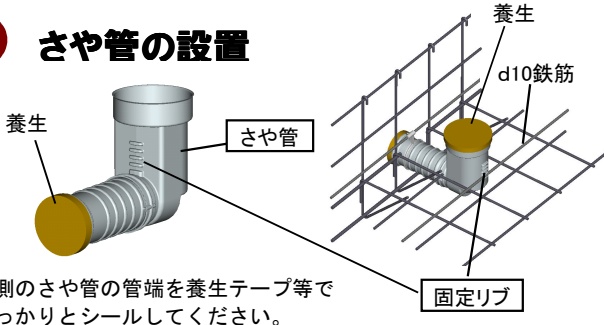
※写真はPack100です

2. 安全にご使用いただくための注意事項

- 内管単体では使用できません。必ずさや管と組み合わせてご使用ください。(さや管を分解しないでください)
- さや管の中にゴミを入れないでください。内管の挿入や接続が適切に行えません。
- 怪我の恐れがありますので、内管ストレートの挿入の際には、指などが挟まれないように注意してください。
- 更新や補修で内管ストレートを引抜く際には、急激に力を加えず、ゆっくり引抜き、転倒しないように注意してください。
- 車内など高温となる場所に長時間放置しないでください。
- 高温となる急結タイプのコンクリートを使用しないでください。

3. 標準施工手順 (ハウスメーカーの仕様等ある場合は、そちらもご確認ください)

1 さや管の設置



- ① 壁側のさや管の管端を養生テープ等でしっかりとシールしてください。

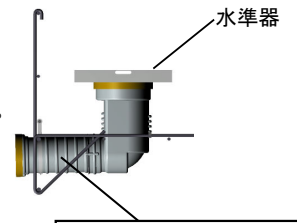
② 市販のスリーブ固定具やさや管の固定リブ等を利用して、しっかりと配筋に固定してください。

③ 内管エルボがさや管内に挿入できることを確認した後に、さや管の床側開口部を養生テープ等でしっかりとシールしてください。

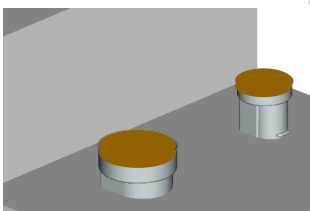
配筋との離隔距離を確保してください。配筋を切断した箇所は、適切に補強筋配置してください。

- さや管の固定用には、d10の鉄筋を使用してください。
- さや管が変形すると内管エルボが挿入できなくなります。さや管が変形ないように固定してください。

④ さや管の上部が水平であることを確認してください。



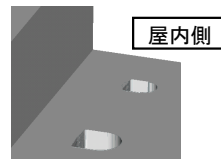
2 コンクリート打設



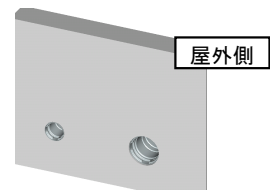
- さや管が動かないように相番など立会いをしてコンクリートを打設してください。

- さや管がつぶれたり、変形しないように、注意して打設してください。

3 さや管の仕上げ



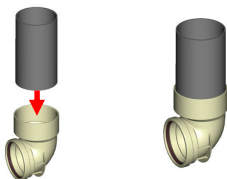
手ノコやサンダーを使用して基礎天端で突き出たさや管を切断してください。



さや管の内面が完全に現れるまでコンクリートを取り除いてください。

- さや管内の切り粉やゴミを取り除いてください。

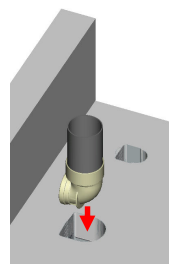
4 立ち上り用調整管の接続



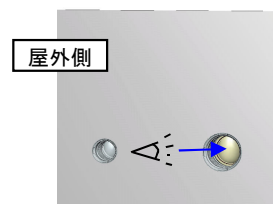
- ① 長さ調節したVU管の外側面と内管エルボの受口内面に接着剤を薄く、塗リムラや塗り洩れのないように円周方向に均一に塗布し、接着接合してください。

接続する塩ビ管

Pack100: VU100 Pack75: VU75 Pack50: VU50



- ② さや管の中に内管エルボをゆっくりと下まで挿入して



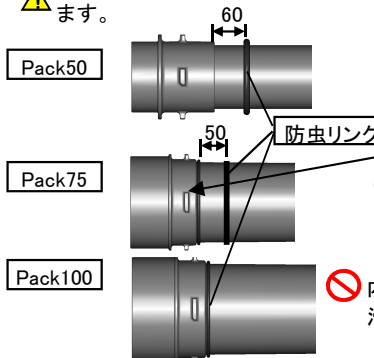
- ③ 屋外側からさや管内部を覗き、内管エルボの内蔵ゴム輪が全周にわたり見えることを確認してください

- 内管ストレートの挿入前に必ず、内管エルボの挿入を完了してください。

裏面につづく

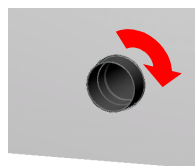
5 内管(内管ストレートと内管エルボ)の接続

- ①内管ストレートの防虫リングを標線位置にねじれなくセットしてください。
 サイズによりセット位置が異なります。



- ②内管ストレートを、KCマークを真上に向け、ゆっくりさや管内にロックリブが当たらないように挿入してください。

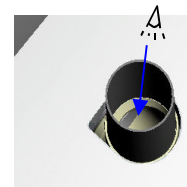
- ⊘内管エルボの内蔵ゴム輪は、自己潤滑性ゴム輪です。滑剤(Vソープ)を塗布しないでください。



- ③最後まで押し込まれた位置で、内管ストレートを時計回りに止まるまで(約45°)回してください。

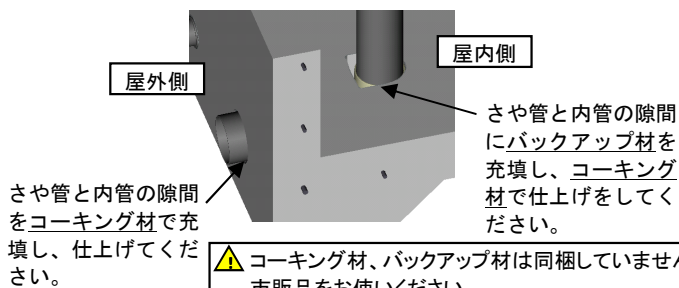
- ⚠内蔵ゴム輪の転びや防虫リングがかみ込むと挿入が非常に固く、スムーズに回転しません。固いと感じたら、一度、引抜きゴムの状態を確認し、挿入してください。

内管ストレート: グレー色
 内管エルボ: アイボリー色



- ④立ち上げ部から内面を覗き内管ストレートが、内管エルボに挿入されていることを確認してください。

6 仕上げ



- ⚠コーキング材、バックアップ材は同梱していません。市販品をお使いください。

- ①コーキング材には、硬質ポリ塩化ビニル管・継手に悪影響を及ぼす可塑剤(フタル酸エステル、DOPなど)や有機溶剤(キシレン、トルエンなど)を含むもの(ポリウレタン系シーリング材など)がありますので、成分をご確認の上、ご使用ください。

【推奨】

床下からのさや管への浸入水を防ぎ、防臭のためにも屋内側の念入りな充填仕上げを推奨します。独立気泡のポリエチレンフォームなど市販のバックアップ材とコーキング材の併用を推奨します。

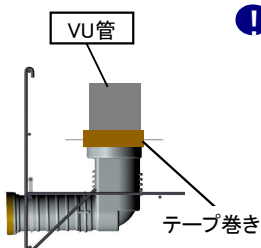


4. 深基礎施工の注意事項

⚠かさ上げ管の接続

さや管の立ち上がり受口に基礎天端+3cm程度となる長さのVU管を差込み、養生テープなどでしっかり固定してください。
 接着剤では、接合できません。

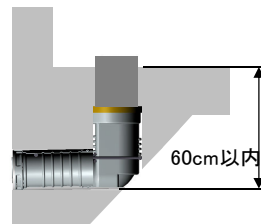
かさ上げに使用する塩ビ管
 Pack100, Pack75: VU150 Pack50: VU100
 ⊘VP管は絶対に使用しないでください。



① コンクリート埋設深さ

コンクリート埋設で設置可能な埋設深さは、基礎天端からさや管管底までの深さが60cm以内としてください。

かさ上げ管もしっかり配筋と固定してください。

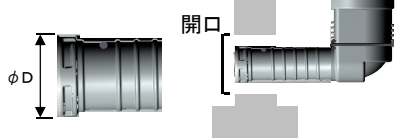


5. 土中埋設で使用する場合の注意事項

⚠基礎壁のポイド抜き

基礎壁は、あらかじめポイド管などで開口を設けてください。

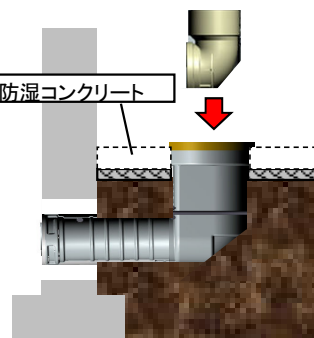
製品寸法	mm
種類	φD
Pack100	135
Pack75	116
Pack50	87



⚠ 転圧

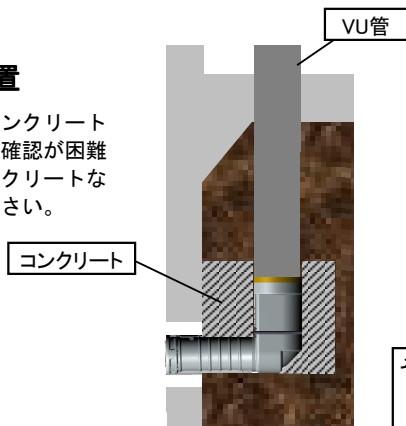
- ①さや管が変形しないように、周囲の転圧に注意してください。

- ②防湿コンクリートの打設前に、内管エルボが挿入できることを確認してください。



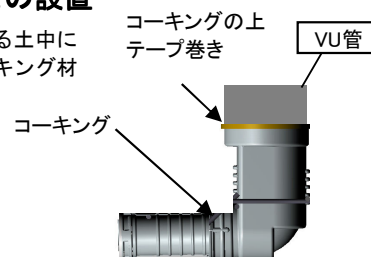
⚠ 土中での深基礎設置

土中での深基礎設置など、コンクリートの打設前に内管エルボの挿入確認が困難な場合は、さや管周辺をコンクリートなどで防護し、埋め戻してください。



⚠ 地下水位の高い場所での設置

地下水位が高く、さや管が水没する土中に設置する場合は、図の場所をコーキング材で止水してください。



その他不明な点、お気付きの点は、弊社までお問い合わせください

本社 〒556-8601 大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号 TEL (06) 6648-2375 (ダイヤルイン)
 東京本社 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町三丁目3番2号 TEL (03) 5695-3274 (ダイヤルイン)